

大学入学共通テスト 受験アドバイス

「何が問われているか？」を把握した上でパターン・プラクティスを重ねよう！ 水野 卓

大学入学共通テスト 英語 リスニングの構成

大問	設問数	分野	語数(程度)	大問	設問数	分野	語数(程度)
1	A	4	短い発話・内容一致	4	A	8	モノローグ(説明文)・図表完成
	B	3	短い発話・内容一致(イラスト)		B	1	複数人の説明・質問選択
2	4	短い対話・質問選択(イラスト)	各 30	5	7	モノローグ(講義)・ワークシート完成, 質問選択	350
3	6	短い対話・質問選択	各 50	A	2	対話(議論)・質問選択	160
				B	2	複数人の会話(議論)・質問選択	230

共通テストのリスニングは難易度をひと言で表すのが困難なテストと言えるでしょう。それは「初めのうちは余裕だけあとの方になるとついていけなくて……」という受験生の声が多いためです。なぜ問題によってそれほど難易度が違う印象になるのか？ それは「問題によって求められる『リスニング力』の種類が異なる」からです。『リスニング力』というと、どうしても「流れる英文を頭の中でテロップにして流す」というイメージが浮かび、多くの受験生はすべての問題でそれを実行しようとしてしまいます。これは不可能です。具体的な対策に入る前に、リーディング同様、まずはテストの全体像を正しく理解しましょう。各問題が「どんな種類の『リスニング力』を測ろうとしているのか」を理解することで、「この問題で意識すべきはこれだ」がわかります。スポーツで一番の試合に臨もうとする際に、対戦相手一人ひとりを徹底分析して、その上でそれぞれに異なる対策を施すのと同じこと。各問題のねらいをしっかりと理解した上でパターン・プラクティスを充実させましょう。正しい対策には大きな得点力アップが必ずついてきます。

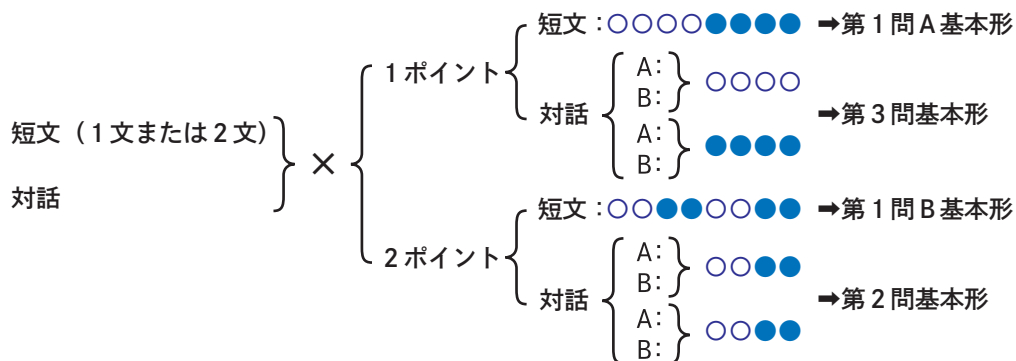
英語リスニングの問題構成

第1～第3問 小問集合

第1～第3問は「英語の文・対話の中で重要情報がどんなリズムで現れるかが理解できているか」を確認するパート、つまり正真正銘の英文聞き取り問題です。

▶ 問題の構成

情報表示形式 × 重要情報出現パターン (●が重要情報)



* 各問題は上のパターンをそれぞれ基本形としながら、一部設問に例外パターンの情報構造(第3問に第2問型など)が含まれる構成。

第4～第6問 総合情報処理問題

第4～6問は「スタイルの異なる文章の中から求められる情報を的確に把握できるか」という情報処理能力を試す問題です。問題ごとに【全体観察型】(＝共通テスト型設問(＝本文×資料照合問題・順序整理問題)を通じて全体の「まとめ・流れ」の把握を問う)と【細部把握型】(＝「ここでこう言っているからこれが正解」のタイプ)の2タイプの問題をバランスよく配置した構成です。いずれの問題もかなりの分量になるため、求められる情報の種類・順序など各問題の形と特徴を理解し、対応力を磨かなくてはなりません。

▶ 問題の構成

第4問 生活文情報処理問題

- A 全体観察型 → 順序の特定
条件の適用
- B 細部把握型 → 提示条件の適・不適の把握

第5問 評論文情報処理問題

- 細部把握型 → 内容一致&図表完成 = 前半2問
- 全体観察型 → 要旨の指摘 = 後半2問

第6問 討論文情報処理問題

- A 全体観察型 → 主張の「概要のみ」の把握
- B 細部把握型 → 「各人の」主張 × 「特定人物の主張の根拠」の把握

参考 本冊 p.55/p.59/p.73/p.85 「解法のポイント」

各問題の対策ポイントの詳細についてはこれから本書をしっかりと学習してもらおうとして、ひとまず「第1～第3問は1つの視点でできた4パターンに過ぎない」あるいは「この問題は細部より全体の流れを意識」といった「聞き取りの基本的図式」を知ることが、問題ごとの違いがよりクリアに見えることにつながります。そして問題ごとの違いがクリアに見えるということはすなわち、それぞれに求められる「リスニング力」の種類が異なることをすでに理解しているのと同じなのです。あとはパターン・プラクティスあるのみ。問題ごとに求められる「リスニング力」をそれぞれ磨き上げてください。共通テスト第1日の最後は、やはり気分よく終えたいものです。頑張ってください。